

環境貢献商品

基本的な考え方

OKIグループは気候変動への対応を含む環境貢献商品の拡大と創出に向け、社内における環境と事業の融合を進めています。グループ全体売上高に占める環境貢献商品の売上高比率の2030年度目標を50%、中間目標として2025年度35%と設定しています。2023年度の実績は、39%（1,662億円）となりました。主な内訳として、ATM、プリンター、ネットワーク機器などがあります。

環境貢献商品は、環境負荷の低減や被害の軽減などについて、直接・間接に貢献をするものとし、下図のように定義しています。売上高の算出にあたっては、外部情勢を踏まえ定義の見直しを行うなど、一貫性や網羅性の向上を図っています。2023年度には集計基準を統一しました。

環境貢献商品の認定は、商品主管部門が申請し、それに対してグループ環境管理責任者とグループ全体の環境事務局が専門的な知見に基づき承認しています。今後、ゼロエネルギーIoTシリーズなど環境課題の解決に直接貢献する商品など拡大を図ります。

環境貢献商品のフレームワーク

環境貢献商品の基準：下記のいずれかを満たしていること

- 環境負荷の原因となるものや環境悪化の被害を減らすことで貢献すること
- 気候変動の被害を軽減する、社会が気候変動に適応することに貢献すること
- 環境影響の管理業務を効率化すること

OKIエコ製品
ハードウェア製品

OKIエコソリューション
ソリューションやサービス

OKIエコ
プロダクツ[※]

貢献分野

脱炭素、省資源／廃棄物削減、化学物質の管理／汚染の予防、その他

貢献方式

その製品を使うことによる直接的な貢献、その製品を使うことによる業務の効率化を通して間接的に貢献することでもよいものとする

直接／間接		製品種別	貢献内容
直接	その製品を使うことで直接的に貢献する	製品の省電力化、ビルエネルギー マネジメントシステム 防災情報システム「DPS Core」	省エネ 異常気象を含む防災や減災
間接	その製品を使うことで、業務が効率化した結果 を通してなど、間接的に貢献する	ITS サービス「LocoMobi2.0」	道路情報の収集・分析を行う機能→渋滞を緩和 →燃料消費量が減少→脱炭素化

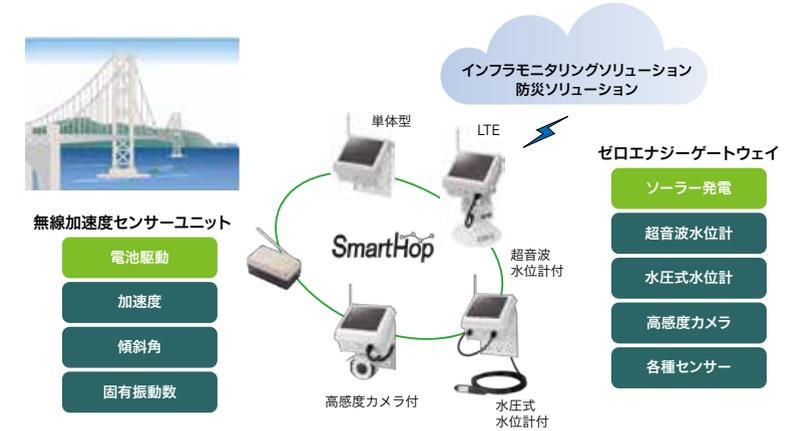
※OKIエコプロダクツ：OKI独自のより厳格な環境基準を満たしたハードウェア製品

拡大が期待される環境貢献商品

■ゼロエネルギーIoTシリーズ

ソーラー発電による無電源環境で、水位センサーや高感度カメラなどのデータ伝送による遠隔監視を実現しています。独自の無線技術で近隣のセンサーデータを収集・蓄積し、まとめて伝送することで無線伝送も省電力化しています。

「製品自体の省電力化」と「気候変動への適応策の提供」の両面から環境課題の解決に貢献しています。



未来に向けた研究開発

OKIグループの研究開発は、そのすべてが環境への貢献を強く意識して取り組まれています。その中でも、特に環境との関連性がわかりやすいものについて、下表に列挙しています。

テーマ名	直接／間接	概要
マルチソース充放電モジュール	直接	太陽光、熱、風力に対応したマルチソース充放電モジュール。さまざまな発電源に対応し、CO ₂ 排出量削減に貢献。
異常検知、予兆検知	間接	音響・振動をはじめとするさまざまな時系列データの多様性・特性に対応でき、それぞれの現場に合わせた個別最適化が可能で、インフラの管理・点検を効率化しCO ₂ 排出量削減に貢献。

詳細はWebサイトをご参照ください。
 環境貢献商品 <https://www.oki.com/jp/sustainability/eco/product/ecosolu.html>
 ゼロエネルギーIoTシリーズ https://www.oki.com/jp/920M/zeroenergy_gw/